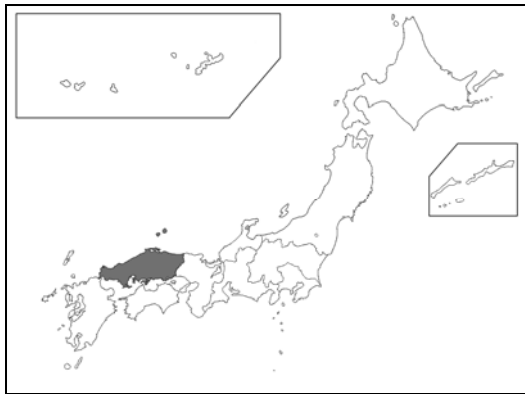


(8) 中国



中国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(↑は上方に変更、↓は下方に変更)。

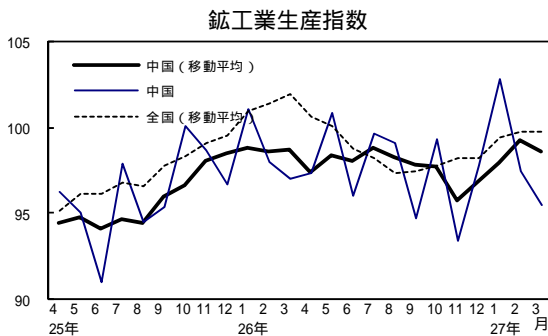
前回調査からの主要変更点

	前回(平成27年2月)	今回(平成27年5月)
景況判断	緩やかな回復基調が続いているが、このところ弱さ	緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さ
鉱工業生産	緩やかに減少	おおむね横ばい
住宅建設	大幅に減少	減少

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

1～3月期には、輸送機械は、自動車が新型車の生産開始などから増加した。化学は、定期修理に向けた在庫確保のためやや増加した。はん用・生産用・業務用機械は、生産設備などの生産は堅調で横ばい。鉄鋼は、製造業向けが堅調でやや増加した。電子部品・デバイスは、納入先の電子機器メーカーの需要期を過ぎ、やや減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

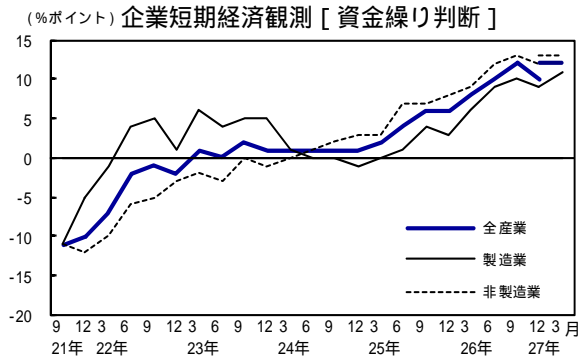
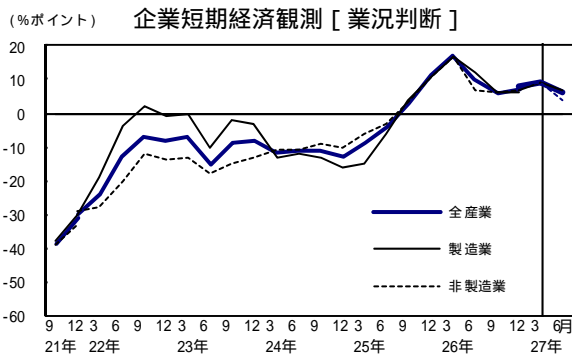
	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
輸送機械	23.5	3.1	9.5	4.4	0.5	5.0
化学	16.4	3.0	1.7	7.3	0.7	2.3
はん用・生産用・業務用機械	11.2	4.7	0.2	28.6	25.1	14.6
鉄鋼	7.7	0.5	1.2	3.0	1.7	0.5
電子部品・デバイス	7.1	3.6	1.9	6.4	15.0	6.2
鉱工業	100.0	1.0	1.9	5.1	5.3	2.0

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 1～3月期、3月は速報値。

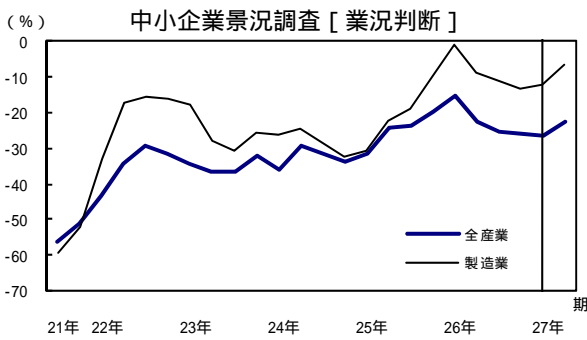
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

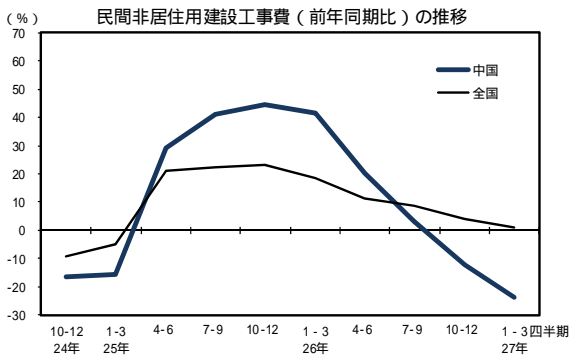
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]
「資機材費や人件費の高騰はあるが、受注量は順調に推移している(建設業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

(前年度比、%)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	11.9 (4.0)	5.0
製造業	15.8 (4.3)	6.6
非製造業	6.9 (3.7)	2.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.7%減、2月は同0.8%増、3月は同0.5%増となった。

大型小売店販売額

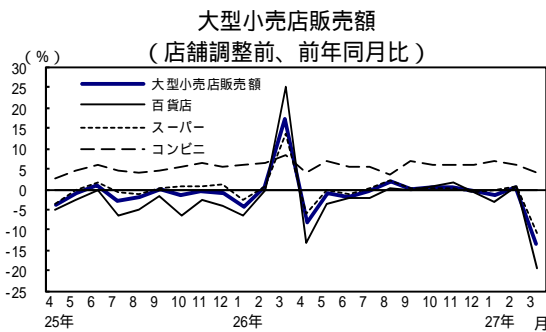
百貨店は、1月は、飲食料品の販売は堅調であったが、衣料品の販売が低調で、全体として前年を下回った。2月は、婦人・子供服の販売が前年を上回り、飲食料品の販売も好調で3か月ぶりに前年を上回った。3月は、前年の消費税増税前の駆け込み需要の影響により、前年を大幅に下回った。

スーパーは、生鮮食品の価格上昇で飲食料品の売上は伸びているが、衣料品全般の販売が低調で、全体として前年同期を下回った。

景気ウォッチャー調査 (4月) [家計動向関連 (現状)]

中国地域の家計動向関連DIは、51.6 となり前月より0.7ポイント上昇した。

「前年4月は消費税増税直後で売上が落ちていたため、今月の売上増のみで景気が良くなっているとは判断できない。ただ商品単価が上がっている中、販売点数は伸びているので、景気は少しは良くなってきている (スーパー)」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

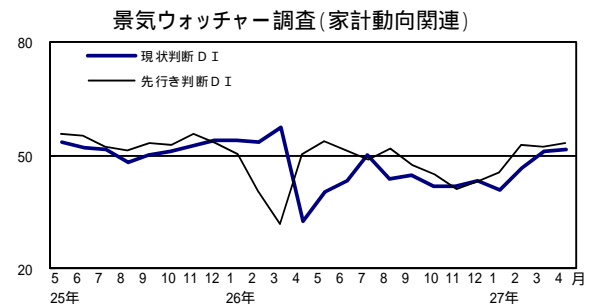
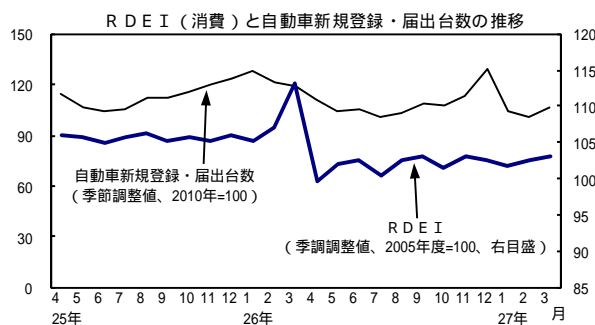


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.2	0.7	0.8	0.5
大型小売店(*2)	5.4	1.3	0.5	13.4
百貨店(*2)	8.4	3.2	0.6	19.2
スーパー(*2)	4.0	0.4	0.5	10.8
コンビニ(*2)	5.5	6.9	5.8	4.1
乗用車(*3)	15.3	19.9	16.9	11.1
(季節調整値)(*3)	11.0	19.0	3.4	5.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

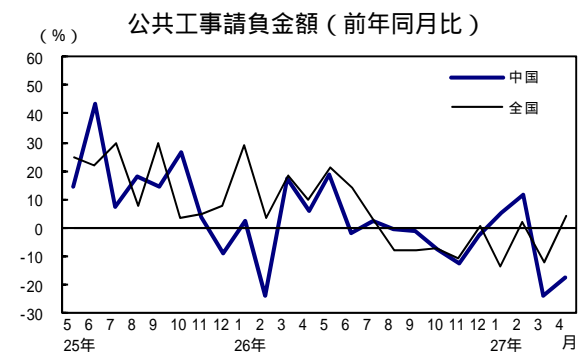
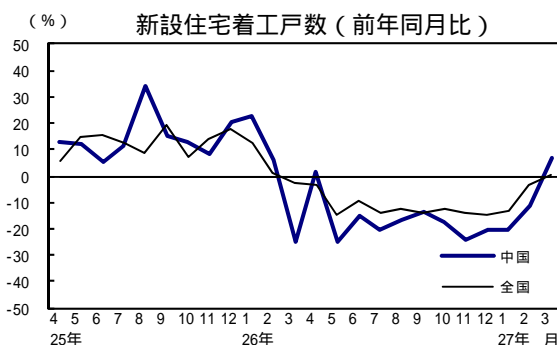
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を上回ったものの、持家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は26年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

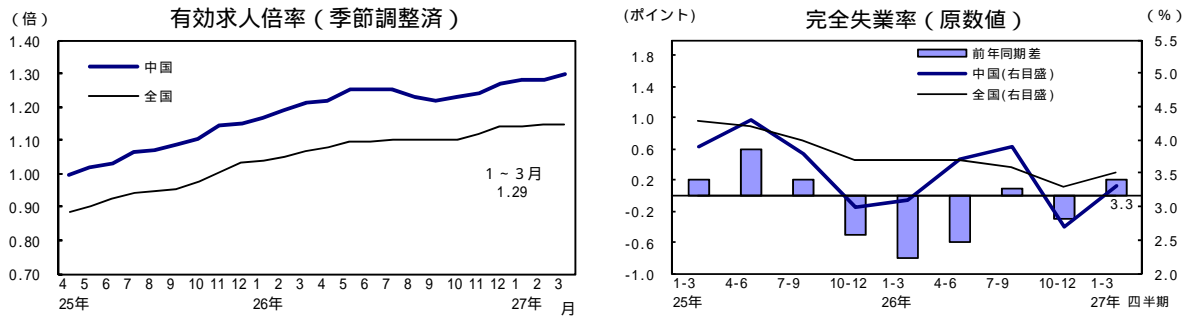


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

「従業員5名以下の小規模企業からも有料職業紹介の依頼が入るほど、世間は採用難になりつつある。小企業では高コストな人材紹介サービスは敬遠されがちであるが、コストをかけてでも採用を急ぐ状況にある(民間職業紹介機関)」などの回答がみられた。

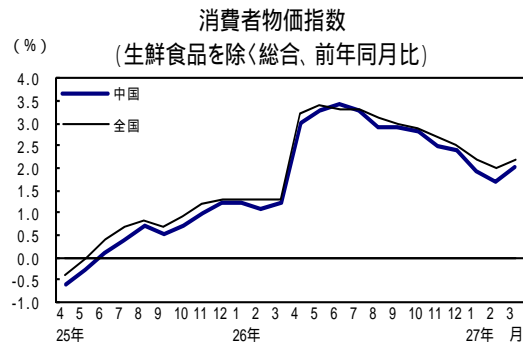
(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

(件、億円、%)

	26年4-6月	7-9月	10-12月	27年1-3月	27年4月
倒産件数	110	108	107	119	29
(前年比)	12.7	10.7	3.6	2.5	29.3
負債総額	163	170	101	265	55
(前年比)	77.3	4.1	51.1	24.3	18.3



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・全体的な来客数はあまり変わらない。ただ2～3年にわたり行事を自粛していた団体が行事を復活したり、バス便を使う利用者が増加しており、イメージとしては景気は良くなっている(ゴルフ場)。

<先行き>

・やまなみ街道が開通したので、前年よりも交通量が増える(その他飲食[サービスエリア内レストラン])。

